

75 回目の『終戦の日』、今こそ改憲阻止、アベ政治終焉へ市民パワーを示そう！



第二次世界大戦の終結から 75 年目となりました。日本の侵略戦争と植民地支配に始まり、15 年にもわたった太平洋戦争は、多くの国々に多大な苦痛と損害を与え、日本も存亡の危機に陥りました。戦争の犠牲となって倒れ、傷つき、苦しめられた全ての人々に、心から哀悼の誠を捧げます。戦禍を生き延びた人々にとっての一筋の光明が、恒久平和を誓った日本国憲法でした。75 年の平和国家への歩みを振り返り、再び戦争の時代を招かないよう努め、後世に引き継いでいくことが、私たちの責務です。

『下北地域 9 条の会』も 8 月 15 日午後 1 時よりマエダ本店前で各野党代表を交えて街頭から反戦・護憲を訴えました。党からは木下 9 条の会共同代表、日土代表代行がそれぞれ、『憲法 9 条改悪と軍事大国化に反対し多くのひとと力を合わせ、改憲発議阻止と安倍政権の打倒を目指そう』などと述べました。

私たちは先人の思いを引き継ぎ、「全世界の国民が、等しく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」ことを謡う平和憲法を全力で努力し続けます。

今年もまた、浮島丸出航追悼集会在開催されました～8 月 22 日、中央公民館駐車場

8 月 22 日、中央公民館駐車場で 27 回目となる浮島丸追悼集会在「浮島丸下北の会」(村上準一会長)の主催で開かれたものです。

この日は 75 年前の終戦から 1 週間後に大湊港から浮島丸が釜山港へ向け出港した日です。

追悼集会是毎年、出港日の 8 月 22 日にはむつ市で、翌々日の 24 日の沈没日には京都府舞鶴市で開催されています。

浮島丸事件とは…

終戦直後の 1945 年 8 月 22 日、大湊港を出港、翌々日 24 日 17 時 20 分頃、舞鶴沖で海軍特設輸送艦浮島丸が突如爆発・沈没し、乗員乗客 549 人(政府発表)が死亡するという事件が起こった。駆け込み乗船者を含めて死者は 2,000 人以上との証言もあり、政府発表の乗船人数犠牲者数を疑問視する説もある。

浮島丸には青森方面の朝鮮人労働者とその家族 3,735 人が帰国のために乗り込み、朝鮮・釜山への航行中に進路を変更して舞鶴へ寄港し災禍に遭い、戦後日本の海難史上「洞爺丸事件」に次ぐ多くの犠牲者を出した。

後に京都地裁では「強制連行された朝鮮人が連合軍やソ連軍の進軍と呼応して暴動を起こすことを恐れ、安全を確認せず帰還させようとした」と認定。

舞鶴へ寄港した理由は乗客には水の補給のためと説明されたが、乗員の中には「舞鶴で下船の準備をしている」との証言もある。また海軍省はGHQ進駐のため 8 月 24 日 18 時以降の船舶の航行禁止命令を出しており、当初から釜山へは行かない計画だったとの指摘もある。爆発原因は舞鶴湾が戦時中に米軍が機雷を投下した海域であったが、船体の引揚時にも爆破の原因は調査されず、確たる証言もなく、真相はいまだ明らかにされてないまま今日に至っている。



下北が原子力半島のメッカとなったキッカケ、原子力船「むつ」

下北半島が原子力基地化しようとしている今日ですが、地と決定しました。さらにわずか2カ月後には県知事、そのメッカは『原子力船むつの母港化』に端を発します。むつ市長が受諾同意したことに端を発します。

本年は『むつ』が大湊港に初入港して50年の節目に当たります。

1963年、観測船として建造計画が決まり、原子力船開発事業団発足し、1967年7月、原子力船母港設置を打診中の横浜市が正式拒否すると、翌々月9月にむつ市を候補

そして、これを契機に1969年3月には日本工業立地センターが下北・六ヶ所地域の原子力産業の拠点化を明示しました。このことにより下北半島の原子力基地化計画は既成の事実となり、今日に至っています。（詳しい歴史は次ページ参照）



そして、『むつ』問題は今も続いています。

事故、トラブル等でわずか2年程度の実験航海のみで御用済みとなった『むつ』ですが、これにより現在でも多くの費用とマンパワーを費やしながらか、むつ市に大きな課題を押し付けたままです。

その一つは約束事になっている原子炉の解体処分が未だ進んでいないこと、そして二つ目は年々増え続ける放射性廃棄物が一向に撤去されないことです。今でも毎年ドラム缶数本分の廃棄物が新たに増加し続けています。そして過去には廃液漏れやドラム缶の損傷などが報告されています。

【個体廃棄物の保管状況 2015/2/6】

保管場所	区分	個数
燃料・廃棄物 取扱棟	200L 鋼鉄ドラム缶	499本
	200L SUSドラム缶	3本
	300L SUSドラム缶	3本
	1㎡ 鋼鉄容器	29個
	3㎡ 鋼鉄容器	3個
	使用済樹脂収納容器	2個
	その他(大型機器)	4個
撤去物等 保管棟	200L 鋼鉄ドラム缶	148本
	1㎡ 鋼鉄容器	41個

第38回原子力船「むつ」安全監視委員会から

六五〇本を超える廃棄物ドラム缶
そして一部は腐食や廃液漏れも

原子力船開発構想と大湊母港決定

- ・1963年、観測船として建造計画が決まり、原子力船開発事業団発足
- ・1967年7月、原子力船母港設置を打診中の横浜市が正式拒否
- ・翌々月9月にむつ市を候補地と決定
- ・11月に県知事、市長が受諾同意(わずか2カ月で決定)
- ・1969年3月日本工業立地センターが下北・六ヶ所地域の原子力産業の拠点化を明示
- ・1969年6月原子力船「むつ」進水
- ・翌年7月大湊港へ入港(72年9月へ核燃料装填)
- ・1973年9月 菊池市長誕生



原子炉が展示されているむつ科学技術館

「むつ」進水記念に発行された記念切手



事故トラブルと帰港から関根浜母港選定

- ・74年8月26日、地元漁民の反対の中、強行出港、9月1日放射線漏れ
- ・74年10月14日、県・むつ市・県漁連・政府間で**四者協定**締結で事故船が帰港
- ・77年9月 菊池市長敗退(自民党市政へ)
- ・78年10月、修理のため佐世保港へ回航
- ・81年1月、新母港としてむつ市関根浜港と読売新聞がスク
- ・81年5月、四者協定を反故にし、**五者共同声明**を確認
- ・81年6月、関根浜漁協が調査受入れ表明
(翌年5月に122対70で補償交渉受諾)
- ・81年9月 菊池市長復活
- ・82年9月、佐世保港より大湊港へ入港
- ・85年9月 菊池市長敗退(杉山市長へ)
- ・1988年1月、関根浜新母港へ回航

- ①6カ月以内に新母港を決める
- ②2年6カ月以内に大湊港を撤去

- ※四者協定に原子力船事業団が加わる
- ①新定係港については関根浜地区を候補地として調査、調整のうえ決定、建設
- ②「むつ」は新定係港の建設見通しを確認のうえ、大湊港に入港
- ③新定係港が完成するまでの間は、大湊港に停泊

～むつ市に回航して今年で 50 年となりました～

なぜ、放射線漏れ事故が起きたのか

地元漁民の反対により定係港での出力上昇試験ができなかった「むつ」は、太平洋上で同試験を実施した。そして74年9月1日、定格熱出力の1.4%に達した際、漏れが発生していることに気付いた。

その後の調査において、原子炉格納容器外の上部の遮蔽体から放射線が漏れていることが分かった。

原研の資料によれば、「むつ」は、潜在的に放射能放出の危険性を有する原子炉を搭載しているにも関わらず、その船体は通常の客船や貨物船、タンカーと同様の船底構造である。座礁や船同士の衝突を想定した二重構造になっておらず、欠陥構造と言わざるを得ない。

実は、原子力船事業団は、「むつ」の原子炉について、ウェスティングハウス・エレクトリック社に技術評価を依頼していた。同社は、原子炉格納容器外の上部の遮蔽が不十分であることを指摘していたが、事業団は何の改良もせず放置していた。

「むつ」の原子炉は1960年代半ばから後半にかけての技術で設計された。日本はその頃、放射線遮蔽研究に本格的に着手したばかりで、研究者の経験やノウハウ、データの蓄積は発展途上にあった。

「むつ」の放射線漏れの原因は、原子炉構造の欠陥ではなく、周辺技術である原子炉格納容器外の上部の遮蔽構造物の欠陥である。原子力船事業団は設立約3年後に、本格的な設計作業に着手したため内部の経験や人材に乏しく、旧科学技術庁管轄下の研究機関や民間企業からの出向者の知識やノウハウに依存していた。こうした体制では、出向元への利益誘導や他社への妨害行為、出向者同士の足の引っ張り合いなどから事業の進展が阻害されて統括や業務の遂行が難しくなる場合がある。放射線漏れは、単なる技術欠陥だけによるものではなく、開発体制の欠陥によって引き起こされた可能性も高い。実際、むつは、プロジェクト管理が的確でなかったためか、当初の予算の10倍の開発費と数倍の開発期間を費やすこととなった。

2020/8/1 東奥日報



今も関根浜地区の「団結・浜の家」入口には故中村亮嗣さんの作成の看板が健在です。

原船「むつ」ふね遺産に

技術的知見など評価



ふね遺産に認定された原子力船「むつ」—撮影日不詳

日本船舶海洋工学会（本部・東京）は31日、第4回の「ふね遺産」に原子力船「むつ」など8件を認定したと発表した。むつは国内初の原子力船として多くの技術的知見をもたらしたことが評価された。すでに廃船となっているが、撤去された原子炉室は日本原子力研究開発機構（JAEA）の「むつ」科学技術館（むつ市・東京）で展示・保管されている。

むつは1969（昭和44）年に進水。同市の大湊港を母港とし、74年に洋上で初臨界を達成したものの、下半島尻屋沖で放射線漏れを起こした。曲折を経て、母港が同市の関根浜港へ移転。4回にわたる実験航海などで地球2周以上に相当する約8万2千キロを原子動力で航行した。「この距離を約4・2キロのウラン235で航行し、放射性廃液を船外に排出することなく航行できることを実証した」（同会ホームページ）という。

認定に対し、JAEA青森研究開発センター総務課

の工藤利博副主幹は「むつの研究開発は、わが国の船舶の歴史を語る上で忘れてはならない国家プロジェクト。国内技術により建造や運航を成功裏に終了したことが認められ、大いに誇れること」と喜び「受け入れてくれた青森県の皆さまに感謝したい」と語った。

当初、むつ開発を手がけた日本原子力船開発事業団は、複数回の再編を経て現在のJAEAとなった。

ふね遺産は、歴史的かつ学術・技術的に価値のある船や関連設備を次世代に伝えるため、同会が2017年から行っている事業。現存していない船舶も対象としている。

（加藤景子）

《2014/8/15 朝日新聞から》

【特集】核といのちを考える～原子力船「むつ」事故から40年 報じた記者3人が再会

原子力船「むつ」が放射線漏れ事故を起こしてから9月1日で40年。当時の乗船記者3人が今月11日、そろって青森県むつ市のむつ科学技術館で、展示されている原子炉と再会した。

「我々が乗ってなかったら、事故は隠蔽されただろう」。40年前に乗船したのは、共同通信の高間徹さん（77）、東奥日報の和島善男さん（74）、デーリー東北の吉田徳寿さん（71）。

船内の異変に3人が気づき、翌朝に放射線漏れの事実が伝えられた。地元紙の2人は自社に原稿を送り、朝日新聞などは高間さんの原稿を使った。

その後、埼玉に住む高間さんは青森を訪れる機会がなかった。「40年の節目だから」と吉田さんに誘われ、来る気になったのは、3年前の東京電力福島第一原発事故があったから。

過酷事故に対処する手順書を黒塗りで出した東電などの姿勢に憤ってきた。「原子力を推進する側の隠蔽体質は全く変わっていない。『むつ』の教訓が生かされていればなあ」そう語る高間さんに、地元の2人はこう応じた。「絶対安全だなんて言うから、それがウソとわかれば不信感が爆発するのは当然だ」「3人が分担して監視していたから、隠しきれないと思って発表した。マスコミは結束しないと」自分たちの体験をもっと語ろう。3人は同じ思いを胸にむつ市を後にした。（隈元信一）



党県連合、立憲民主との合流への方向性を確認～8月26日 常任幹事会

新党合流に賛成

社民県連

社民党県連は26日、青森市の県連事務所で開催した常任幹事会を開き、立憲民主、国民民主両党による合流新党に賛成する方針を了承した。自公政権に代わる受け皿として、大きな固まりを構築する方針で一致した。

会議は冒頭を除き非公開で行われ、三上武志代表や齋藤憲雄幹事長ら10人が出席。新党との合流について出席者から意見を聞き、「賛成」にまとまった結果を常任幹事会が了承した。

会議後、取材に応じた齋藤幹事長によると、護憲や脱原発など党独自の運動が継続できるか不安視する声は上がったものの、合流に反対意見は出なかったという。

党本部は立民との合流協議の過程で各県連に意見をまとめるよう求めていることから、今後は県内各総支部で党員集会を開いて党員の意見を聞き、県連の意向と合わせて党本部に伝える。党としては今秋にも開催予定の臨時大会で、合流の是非について一定の方向性を示す方針とみられる。

齋藤幹事長は「政策が一致しないまま合流しても単なる野合。政策についてある程度お互いが納得した上で合流するために新党との話し合いが必要だ」と強調した。

常任幹事会の冒頭であいさつする三上代表



常任幹事会の冒頭であいさつする三上代表

常任幹事会には田名部国代代表をはじめ県議、市議ら12人が出席し、冒頭を除き非公開で1時間開かれた。

(野村通)

2020/8/27 東奥日報

立憲民主と国民民主の合流～本県の国民民主党は全体で合流新党へ結集の見込み

国民県連 新党合流

常幹決定 自民一強に対抗

国民民主党県連は23日、青森市のアラスカで常任幹事会を開き、県連として立憲民主と合流新党に参加する方針を決めた。県連幹部の多くが新党入りする見通しで、県内政界で自民と野党の勢力が結集するのは2017年秋以来約3年ぶり。次期衆院選も見据え、一強・自民党に対抗するための態勢構築を目指す。

(本紙取材班) 【関連記事3面】

次期衆院選見据え

常任幹事会には田名部国代代表をはじめ県議、市議ら12人が出席し、冒頭を除き非公開で1時間開かれた。

終了後、会見した田名部氏、奈良野孝幹事長によると、田名部氏が自民党に代わりうる大きな固まりをつくる必要性を説明し、自らが合流新党に参加する意思を表明した上で、県連として新党に加わることを提案。これに対し、出席者から賛論はなかったという。

一方、国民と立民の政策の違いを懸念する声が上がった。田名部氏は「必要に応じて政策的な違いが出てくるかもしれないが、新党でいい政策を提案していきたい」という決意で一人でも多くの仲間と新しい政党がスタートできれば」と語り、立民県連も今後、新党合流に向けた手続きを進める方針だ。

国民の田名部氏 新党参加を表明

県連も参加を決定

2020/8/24 朝日新聞

国民民主党県連代表の田名部国代議員(51)は23日、県連の常任幹事会に出席し、立憲民主と合流新党に参加する意向を表明した。田名部氏は「必要に応じて政策的な違いが出てくるかもしれないが、新党でいい政策を提案していきたい」という決意で一人でも多くの仲間と新しい政党がスタートできれば」と語り、立民県連も今後、新党合流に向けた手続きを進める方針だ。



記者会見で新党参加について説明する田名部国代氏(青森市野村)

田名部氏は青森市で開いた常任幹事会後の会見で、新党への参加を表明した。これについて「保守とリベラルではなく憲法と政治で結ぶべき」と述べ、県連として新党への参加を決定。次期衆院選に向けて県内の自民と野党の勢力が結集し、自民党一強に対抗する態勢を構築する。田名部氏は「必要に応じて政策的な違いが出てくるかもしれないが、新党でいい政策を提案していきたい」という決意で一人でも多くの仲間と新しい政党がスタートできれば」と語り、立民県連も今後、新党合流に向けた手続きを進める方針だ。

田名部氏は「必要に応じて政策的な違いが出てくるかもしれないが、新党でいい政策を提案していきたい」という決意で一人でも多くの仲間と新しい政党がスタートできれば」と語り、立民県連も今後、新党合流に向けた手続きを進める方針だ。

(本紙取材班)



常任幹事会の冒頭、あいさつする田名部代表(奥右)＝23日午後、青森市のアラスカ

総支部三役は8月24日、国民民主党むつ支部と懇談を持ち、去る23日に開催された国民民主党青森県連の常任幹事会の経過について状況報告を受けました。

本県の満州移民 全国有数

青森中央学院大・藤巻教授調査

林業1万3123人下北が9割

1932（昭和7）年に建国された満州（現中国東北部）には、45年の終戦までに多くの日本人移民が入植した。日本政府が主導して全国から募った農業移民と滿蒙开拓青少年義勇軍は、本県では8365人、全国では約27万人に上るとされる。一方、満州移民史を研究する青森中央学院大学の藤谷啓蔵教授

戦後75年
あおもりの夏

(3)は、県内から林業移民が1万323人いたことを示す。その他の移民を含めた実数は2万100人と、全国ツブクラスの「移民出県」だったと指摘している。



藤樹啓森教授

藤巻孝義教授によると、農業
林業、青少年職業軍人は、拓務
民の資料を語る上で欠かせない。現存する関東の資料

性的に支配していた満州の森
林資源を活用する狙いがあ
った。

林業移民の存在は広く知
られていたが、藤巻孝義
教授は、県内各地で移住
民の資料を語る上で欠かせ
ない。現存する関東の資料

藤巻孝義教授

[illegible]

■満州への移民数

① 長野	37,859人
② 山形	17,177人
③ 熊本	12,680人
④ 福島	12,673人
⑤ 新潟	12,651人
⑥ 宮城	12,419人
⑦ 岐阜	12,090人
⑧ 広島	11,172人
⑨ 東京	11,111人
⑩ 高知	10,482人
⑪ 青森	8,365人

内、日本大船組とては、一定数分とまづて蒲州に運る「分村」もあつた。この理由に藤澤孝教授は「下北地方の林業従事者は、下北地方世界大船客の森林伐採、火鋸の技術を持っていた」と説明する。

蒲州には「大葉安頓」「小風安頓」の両山脈をはじめとて丘陵地が広がっていた。当時日本は銃などの軍需品、ハルブを生産するため、木材をオーストラリアやカタールから輸入していたが、木材が乏しなっていた。

2020/8/22
東奥日報

藤巻教授は「本意ではなかった移民も多くいたと思う。もはや移民だった人に直接話を聞くことはできないという難しさはあるが悲しい歴史の事実を次世代に伝えていきたい」と語った。

新聞記事 終戦特集

満州移民が青森県、とりわけ下北出身者が相当数に上るとのことです。(右記事参照)

また、『下北地域9条の会』共同代表の畑中浩美さんの発行した小冊子が北海留萌市の地域新聞に報じられました。(下段左参照)

他に元青森市議杉村さんも…

逃避行 体力ない者から落後

林業移民について記した文献のついで、2000年、旧川内町（現むつ市）が発行した「川内町史」があらわす。1986（昭和61）年9月、鹿児島県東部の牡丹江（現中津川郡）に出生した「弟」向仙朗が林業開拓団の誘ひで、じやと壮絶な引き移り体験などを経て、川内町は、めづ北迫方の仙天林業労働者経験者が、到着すると南側は「戸当たり」の数値は300坪以上、「水道施設が完備」とも謳った環境で、森林伐採の作業も、雪下30度を超え

林業移民、旧ソ連の参戦後…

旧川内町史 克明に

の姿は痛いと云う方が全く作業であるが、潮州の山は斜南なく、仕事は晴晴に進んでいく振り返っている。

45年9月9日に日ソ連が参戦し、黄州に侵すところ、移民達は連年の機織り用や酢酸（抗日ケラ）等々に使えなから、遂に森を焚き捨てに転落した。その夜は猛虎を餌に、「仙洞開閉団」の〇〇名ものうち、6歳未満の子供はほとと、一高齡若や幼少の婦らとなつた。次々女や幼少の妊婦らとなつたが、次々女は産後死していった」といふ。

（熊鷹傳書）

る妻とは痛いという方が多いわし

生存者で青森県在住の畑中さんが冊子発行

第二新興丸の悲劇後世に



引き揚げ船 第二新興丸

「戦争を風化させない」

終戦直後、日本海の留萌沖などで実際にあった樺太引揚三船遭難(殉難)事件の悲劇を後世に伝える、冊子「樺太緊急脱開引き揚げ船 第二新興丸」が、このほど発行された。同船に乗っていた生存者で、青森県むつ市に住む下北半島研究所代表の畑中浩美さん(78)が、生存者の手記、文献や資料などを参考にまとめ、自費制作した。近く、犠牲者の遺族らに贈ることにしている。

三船遭難(殉難)事件は、終戦直後の昭和20年2月26日未明に、樺太(口阿・サハリン)州から緊急疎開(緊急避難)して小笠原に向かっていた小笠原丸、第二新興丸、泰東丸、旧7連軍の潜水艦が攻撃を受けた悲劇。死者行方不明者合わせて170人余に上る。

樺太で生まれ、当時3で家族と乗船して九死に生を得た畑中さんは「生者の一人として、樺太の

せない」

件争とその悲劇を風化させることなく、その一端でも記録して後世に伝えることが私の使命と考え、冊子を発行しました」と語す。

畑中さんが、これまでに発行した第二新興丸など樺太関連の冊子は、平成21年に一冊目の「緊急避難・樺太からの引き揚げ三船」を出して以来、「樺太の戦争とその悲劇」、「元・乗組員が語る第二新興丸とその戦闘」、「元・車属がみた第二新興丸の戦闘と惨状」など

大の防衛 樺太の戦争と 急戦開の様子をつづった。 計4回にわたる第二新興丸の住民輸送では、樺太の大泊港を出発し、清水艦の攻撃を受けて応戦、魚雷の衝撃と浸水による住民の不安、留萌港に入港するまでを時系列で追い、その悲劇の実態を手記や文獻を参考者らに発表、生存者らの証言を掲載。このうち家族8人を出発し、父親と弟、妹含めて4人が犠牲となった。田嶋雄三さんの家族写真も紹介されている。

今回300部を印刷した冊子は、青森県つ市内の

6冊。7冊目となる今回は、同27年に雑誌「うその風」創刊号に寄稿した「第二新奥丸はなぜ留萌沖で攻撃されたのか」の文章を改題して冊子にした。B5判、28頁にまとめ、第二新奥丸の船体見取り図や組織表、装備等配置略図、樺太から引き揚げ三船舶の航行コースと遭難した日時や場所をはじめ、樺太島の位置、南緯01°45'（22）58'56

北海道機関や友人らのほか、2日々に留萌市沖見町の浄土寺で行われる遺族会主催の慰霊祭で、同会事務局の水谷操さんを通して遺族、参列者に贈られる。また、希望者には無料で提供するが、〒035-1740・青森県むつ市緑町1043・畑中浩美さん宛まで必ずはがきで申し込む。問い合わせは、畑中浩美さんへ電話0175（22）5856。

平和への思い 若者に

1945年7月28日、9歳で青森空襲を体験した。戦後75年、84歳になった今も、平和を守るための活動を続けている。

青森空襲を体験 反戦訴え40年活動
すぎむら のりこ
杉村 憲子さん (84)



満員だった。開夜から「ゴオ
ーツ」と、爆撃機の低音が響
いてくる。疎開先まで必死で
歩き、防空壕にたどり着い
た。明け方、父が戻ってきた。
水をかぶって逃げてきたとい

ろ。「火
何人もい
なかつた
朝、母は
難してゐ
た。

るまになった人が
でも、助けられ
て悔やんでいた。
にぎりを作り、避
け落ちたのだらう。家々の米
びつは炭になって煙を上げ、

政府のガラやピンは落ちていた。だが、このころにはもう曲がついてた。「目的意識が分からなくなってきた」光でできた。父からは「火に飛込み、おぼけて川や池に落ち込み」と聞いた。土庫に落ち込み、中で焼死した人を見たという。

近所の月島日暮里開關先。船塢の工員が録音。ラジオで王宮放送を聞いた。泣き出す人があった。でも、子ども自分らはうれしかった。これでもう、逃げ歩かなくていい。

短大を卒業後、青森市で全電通労働組合興災支店の職員増え、平和運動の機が湧く。60年安眠寺では東京のデモに加わった。「有者が黙ってれば、政治権力者の思うように動いていける」。戦前に導くような政策も絶対にない。

82年に旧社会公館で5日間市議選活動をした。5期連続落選。市議代を含め約40年かけて、平和を訴える活動の精を出してきた。

毎月8日は中街で横断幕を掲げ、反戦と避難者を支援する。太平洋戦争の開戦日を（1941年）8月8日を覚えてきた。市民団体「森羅を記録する会」では、自らの体験を基に、被災児は語り継ぐ活動に助んでいる。終戦の日には毎日、市内の豆の店が戦争に参加する。15日も戦争を運んだ。平和の思いはあっても、二度と戦争をするてはないという気持ちがある。若い人たちを受け継いでいくことが大事になるけれど、まづ、体が動く間は続ける。（選挙無効）

2020/8/16 朝日新聞

「貴族院を憲レベル強制性風変わりな議院に介錯」といふ中、
 制度を改める意思の現れが期待

お願いです！ 前回みなさまにお願いした2種類の署名についてまだ送付されていない方はぜひ、よろしくお願いします。